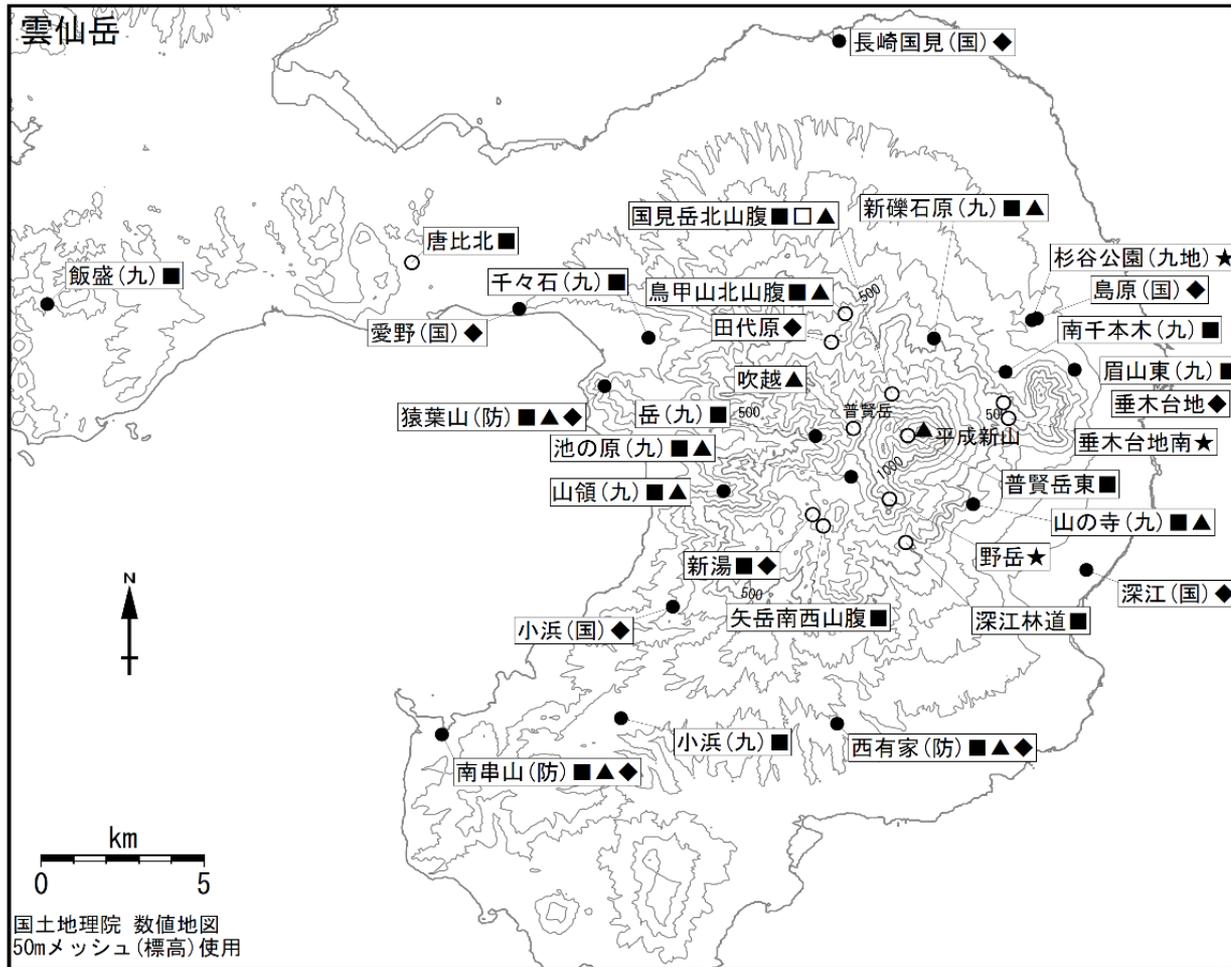


雲仙岳の火山活動状況

令和5年度 雲仙岳火山防災協議会

令和6年3月18日

長崎地方気象台
福岡管区気象台



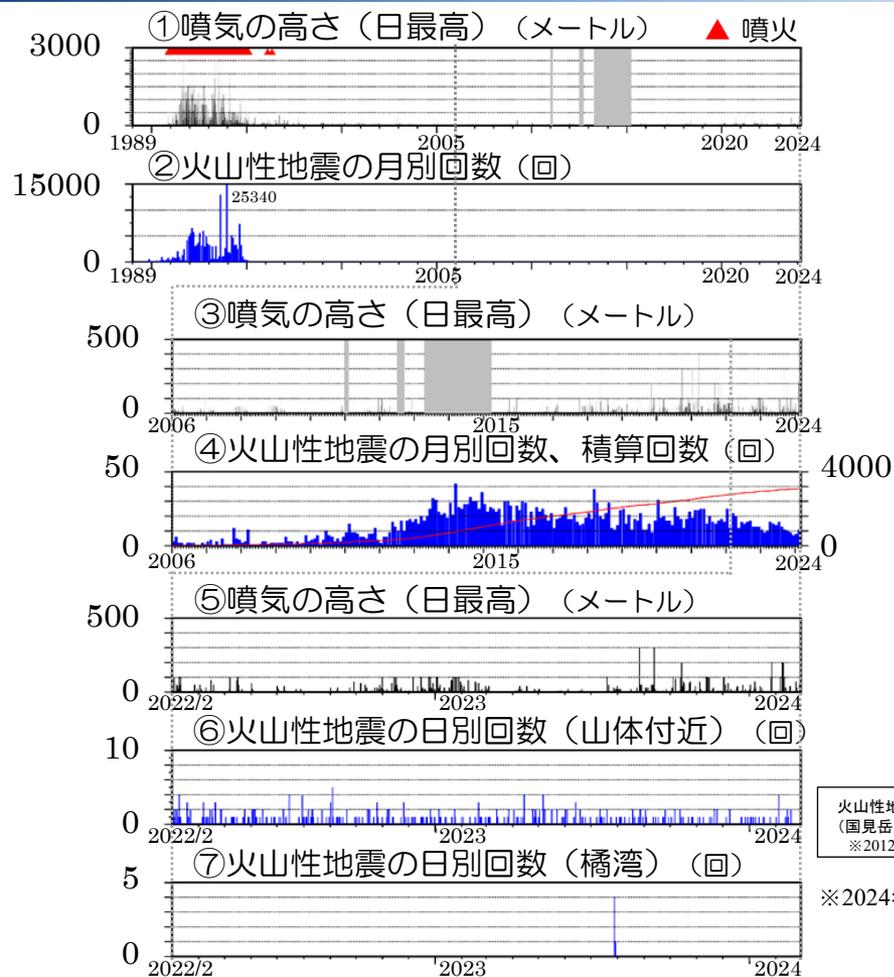
観測点配置図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点を示す。

(国)：国土地理院、(九)：九州大学、(防)：防災科学技術研究所、(九地)：九州地方整備局

観測点名称の横の図形は観測機器を示す。

■：地震計 □：空振計 ◆：GNSS ▲：傾斜計 ★：監視カメラ



雲仙岳 平成新山の状況（2023年9月12日）

2023年以降、白色の噴気が最高で噴気孔上300mまで上がりました。（野岳監視カメラによる）

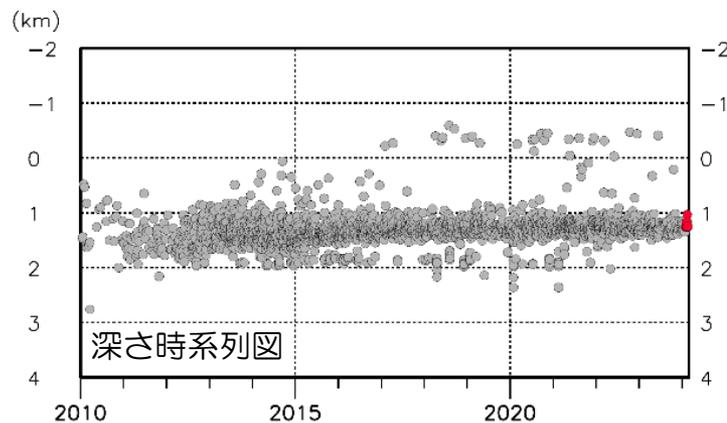
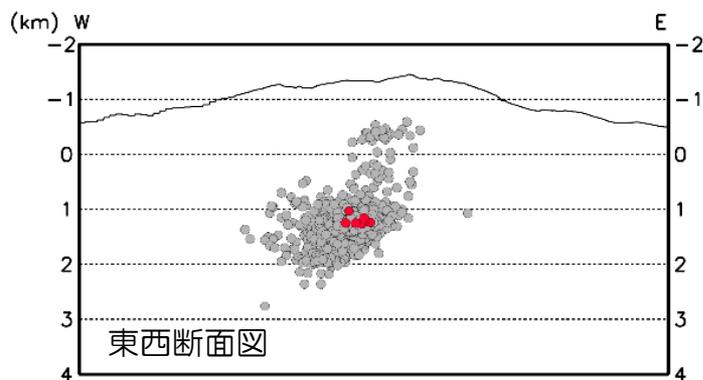
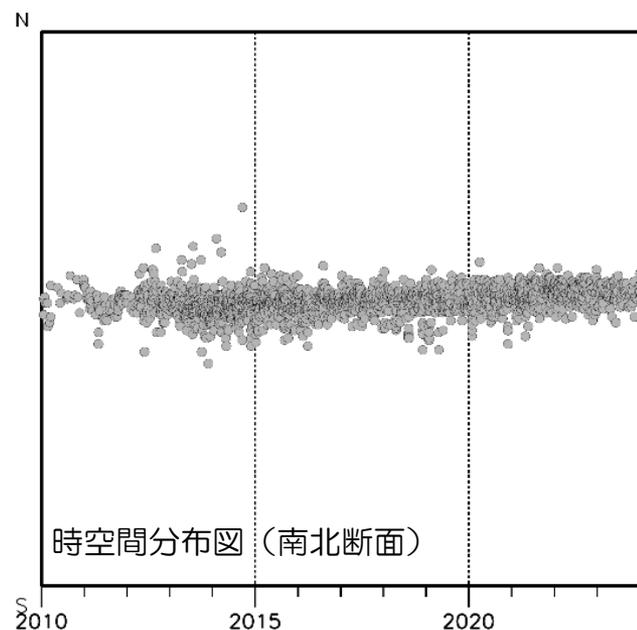
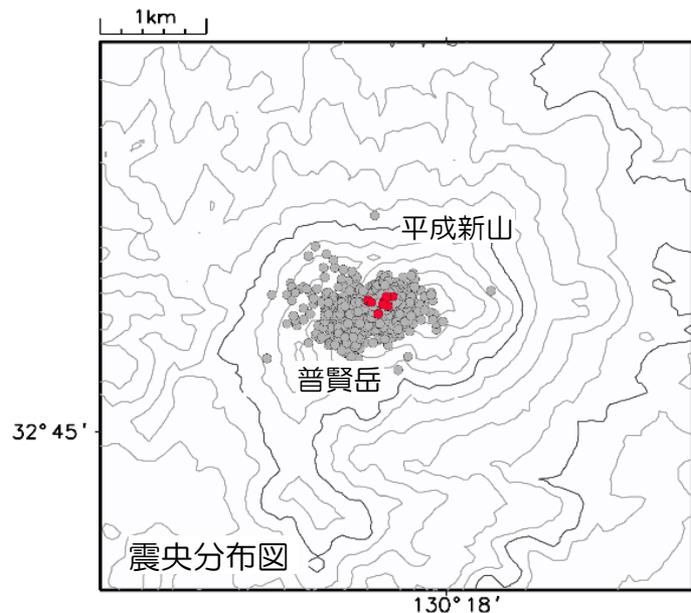
火山性地震の計測基準
(国見岳北山腹) 上下動 2 μm/s以上 S-P 2.5 秒以内
※2012/8/31まで (矢岳南西山腹) 上下動 5 μm/s

※2024年2月までのデータで作成しています。

火山活動経過図 (①・②1989年～ ③・④2006年～ ⑤・⑥・⑦直近2年間)

- 白色の噴気が時々観測されています。2023年は最高で噴気孔上300mまで上がりました。
- 普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震は、2010年以降やや増加しています。
- 火山性地震の回数は1日あたり数回程度と少ない状態で経過しています。
- 橘湾を震源とする火山性地震は、2023年7月に5回発生しました（有感地震2回 最大震度2）

火山性地震の発生状況（山体付近）

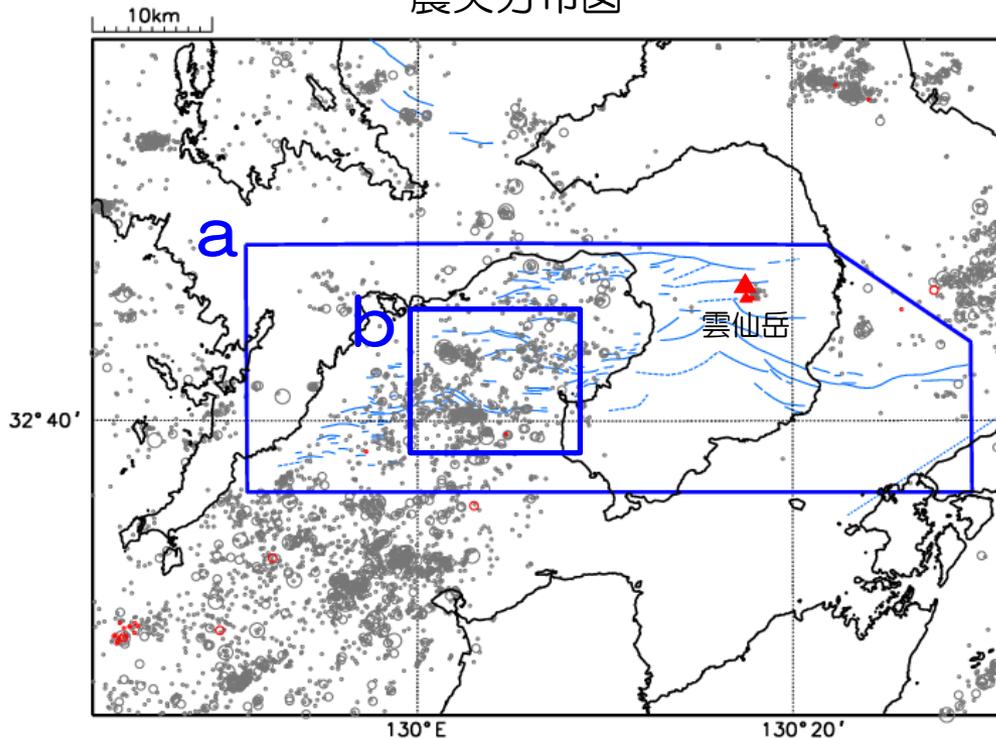


火山性地震の震源分布図（2010年1月～）

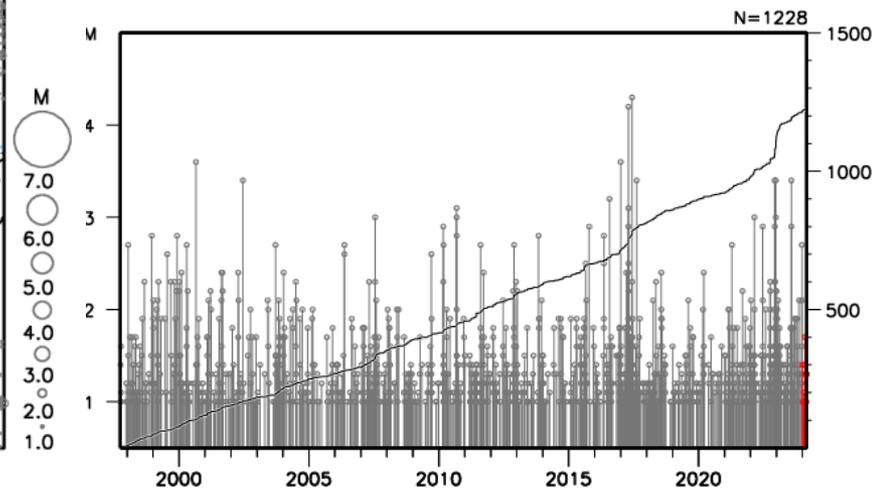
赤丸（●）は2024年2月、灰丸（●）は2010年1月～2024年1月の地震を示しています。

震源は、普賢岳から平成新山直下の深さ0km付近と深さ1～2kmに分布しています。

震央分布図



左図 a 領域の地震活動経過図

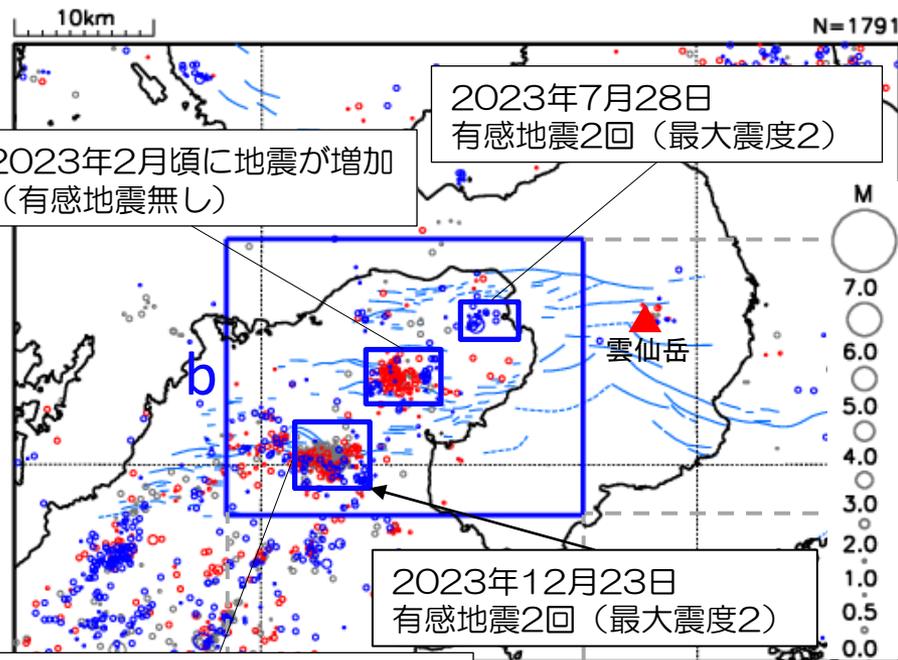


雲仙岳周辺の地震活動（1997年10月～）

赤丸（●）は2024年1月～、灰丸（●）は1997年10月～2023年12月の地震を示しています。
※マグニチュード1.0以上の地震を表示しています。

- 雲仙岳及び雲仙断層群周辺では、定常的な活動で経過しています。
- 2023年は、橘湾を震源とする有感地震が5回発生しています（最大震度2）（2022年：14回、最大震度3）。
- 雲仙岳の火山活動に変化はありません。

橘湾の地震活動 (2022年9月~)



2023年2月頃に地震が増加
(有感地震無し)

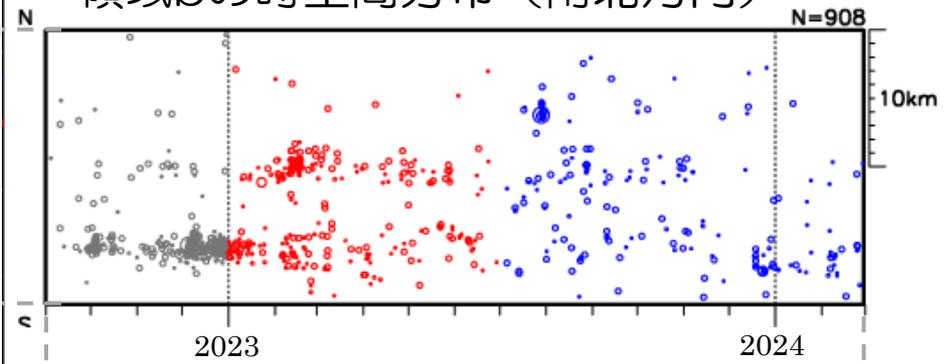
2023年7月28日
有感地震2回 (最大震度2)

2023年12月23日
有感地震2回 (最大震度2)

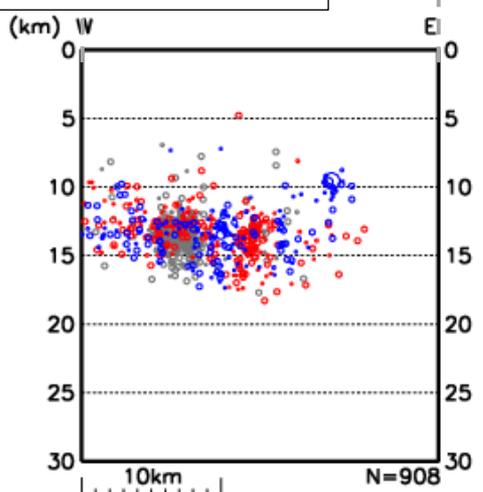
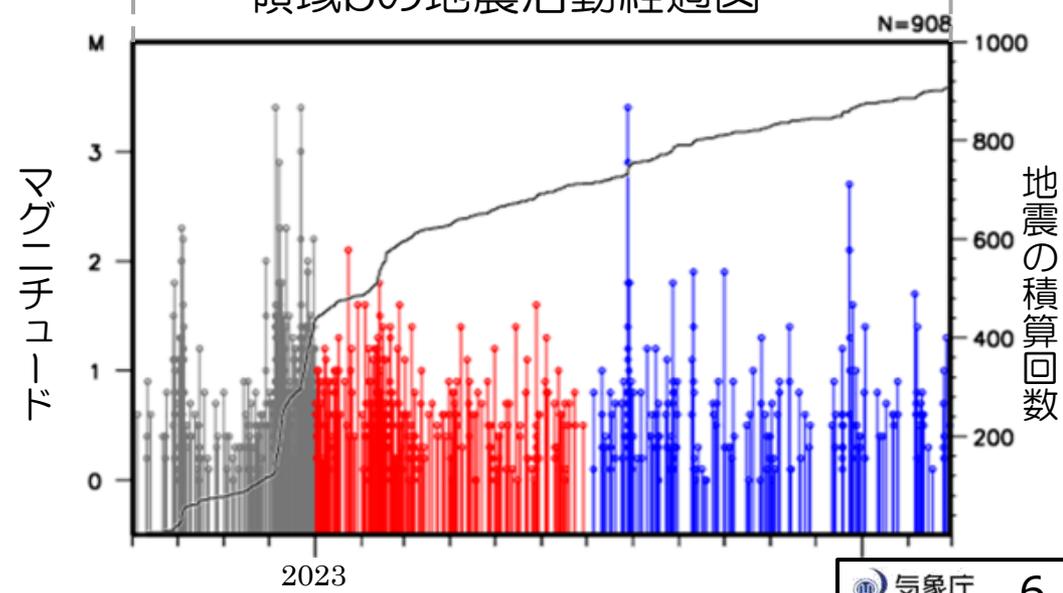
2022年10~12月に有感地震
10回発生 (最大震度3)

2022年9月1日~2024年2月29日 (M0.0以上)
○2022年9月~ ○2023年1月~ ○2023年7月~

領域bの時空間分布 (南北方向)

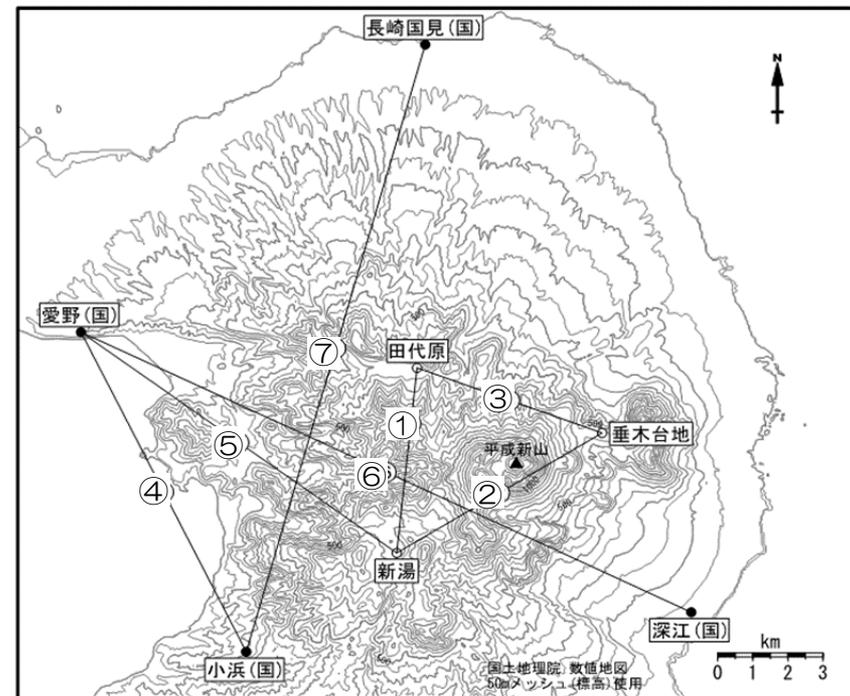
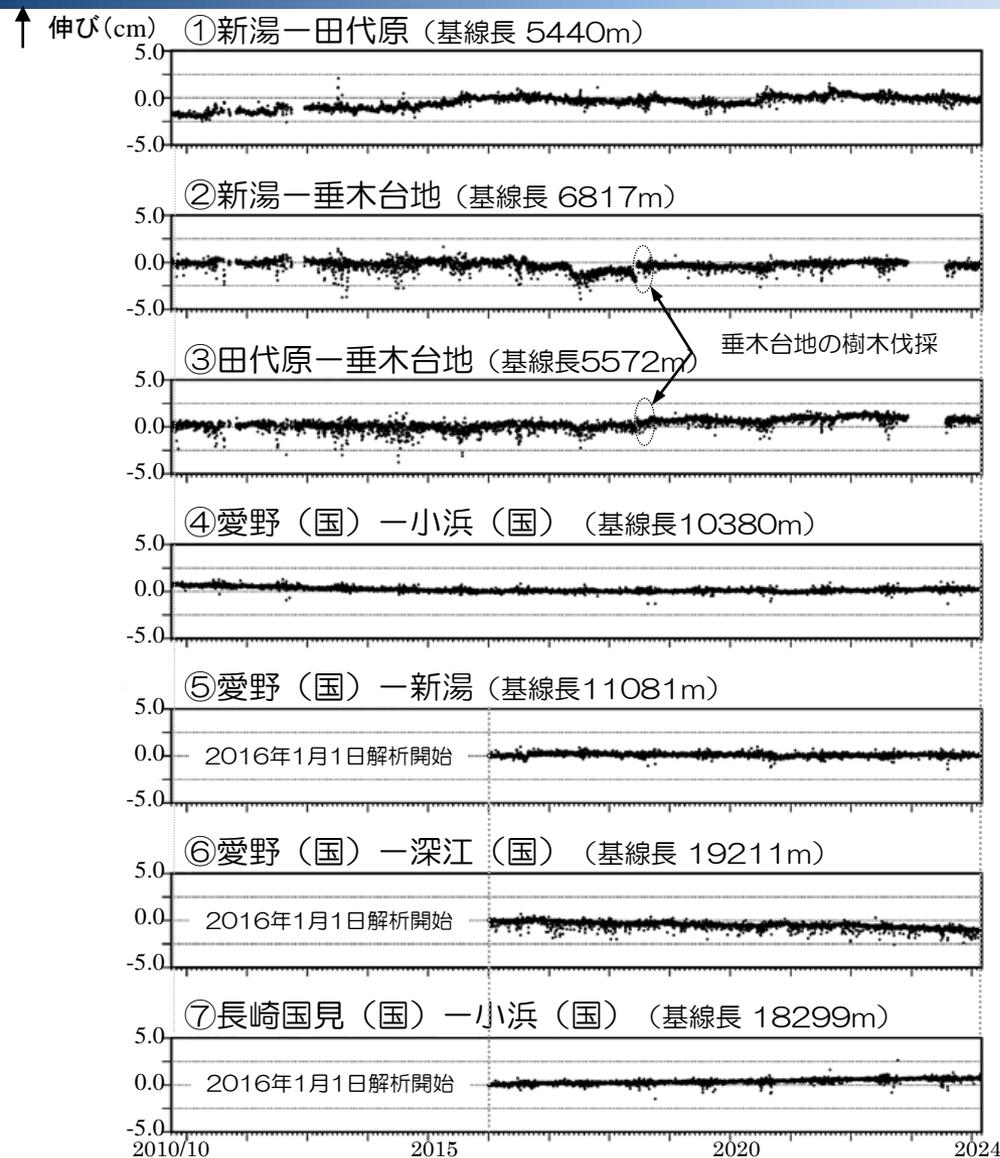


領域bの地震活動経過図



領域bの東西断面図

GNSS連続観測の基線長変化



GNSS連続観測点と基線番号

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は国土地理院

GNSS連続観測の基線長変化 (2010年10月~2024年2月)

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められません。

- 火山活動に特段の変化はありません。
2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。
- 2007年（平成19年）12月1日に発表した噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）以降、予報事項に変更はありません。